

スマート農業イノベーション推進会議 会員ニーズ調査アンケート結果まとめ

IPCSA事務局

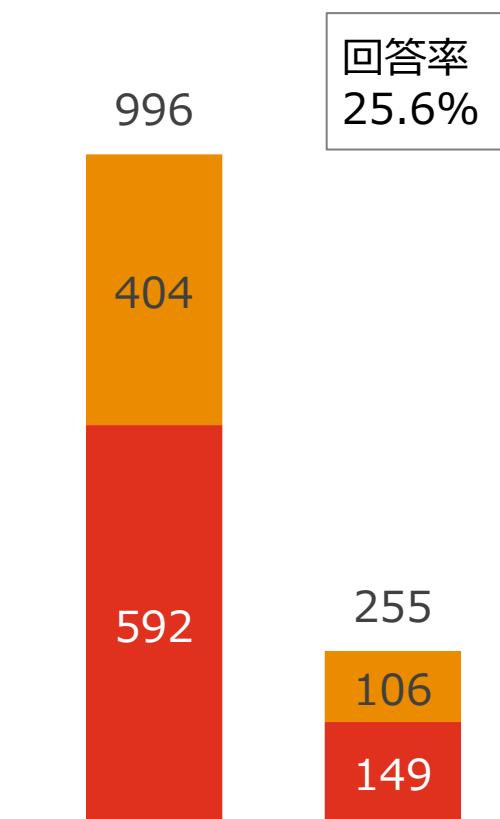
アンケート実施概要

目的	<ul style="list-style-type: none">・課題に対して情報発信、事業者紹介等の個別フォローを実施・分析結果を踏まえ、次年度施策検討や今年度施策内容検討に活用
手法	Microsoft Forms
期間	2025年6月27日(金)～7月15日(火)
対象・回答数	会員数996名に発出し、255名より回答を受領
主な 設問内容	<ul style="list-style-type: none">・基本情報（業種・職種等）・スマート農業に対する目線・立場<ul style="list-style-type: none">- 農業者・農業法人：営農類型、品目、経営規模、年齢層- 農業者・農業法人以外：スマ農技術のユーザー、開発者、普及促進者などの立場か・スマート農業の活用・開発・普及促進状況（現状の確認）<ul style="list-style-type: none">- 解決したい課題、関心のある技術、情報収集時の参照先・相談先・IPCSAに対する意見要望（目指す未来像の確認）<ul style="list-style-type: none">- IPCSAに求める機能、期待、その他ご意見ご要望

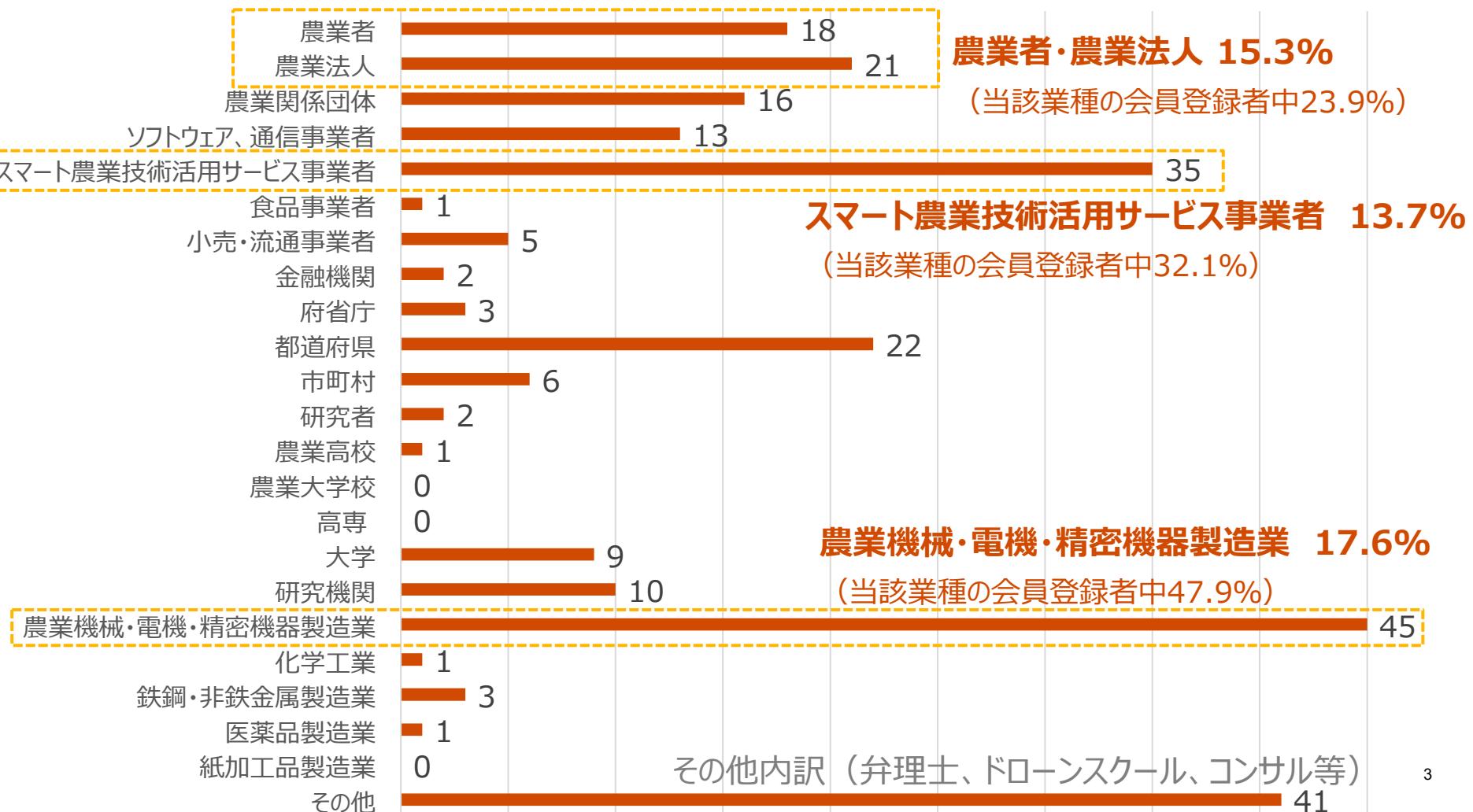
回答者数、業種

会員数996名（7/11時点）のうち、255名（25.6%）の回答あり。農機メーカー45件(17.6%)、農業者・農業法人39件(15.3%)、スマート農業活用サービス事業者35件(13.7%)の順に回答が多い。

アンケート回答数



業種ごとの回答者数



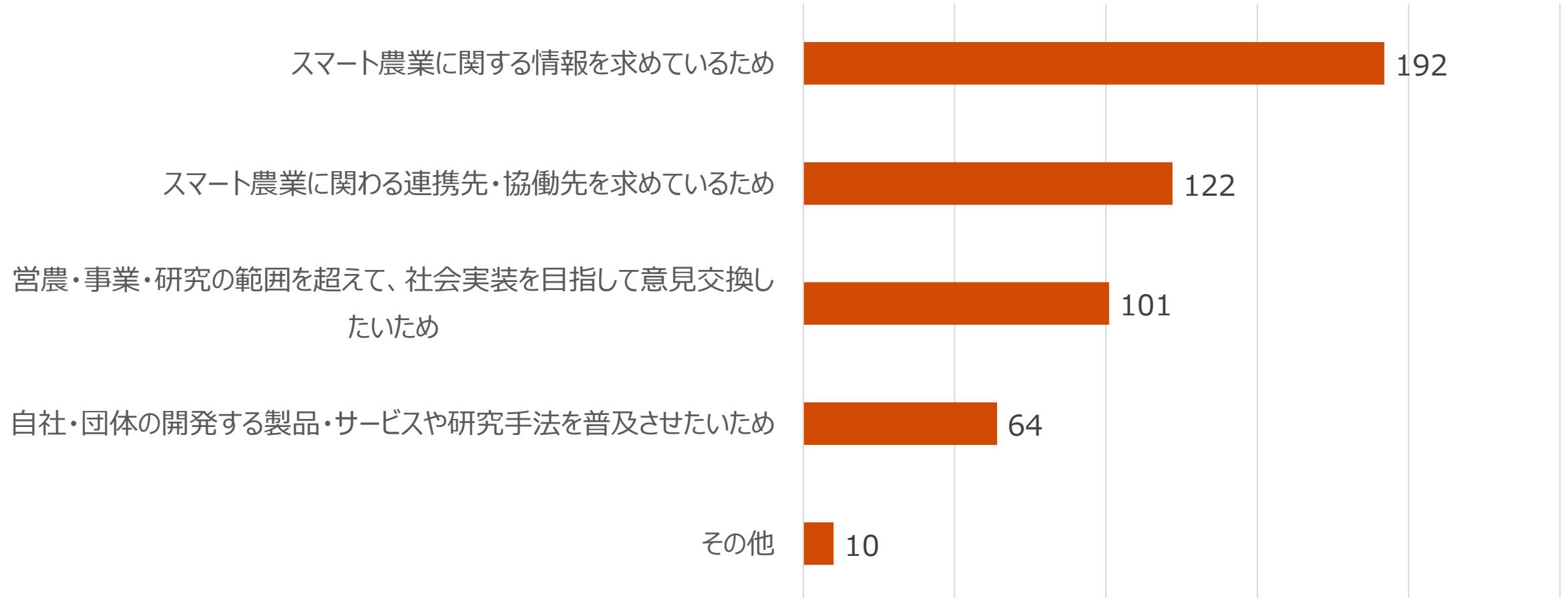
会員数 回答者数
■ 法人 ■ 個人

入会動機

入会動機として情報収集が最上位となり、連携先・共同先を求める意向や意見交換の場を求める意向も一定数見受けられた。

N=255
※複数選択

IPCSA入会動機（件数）

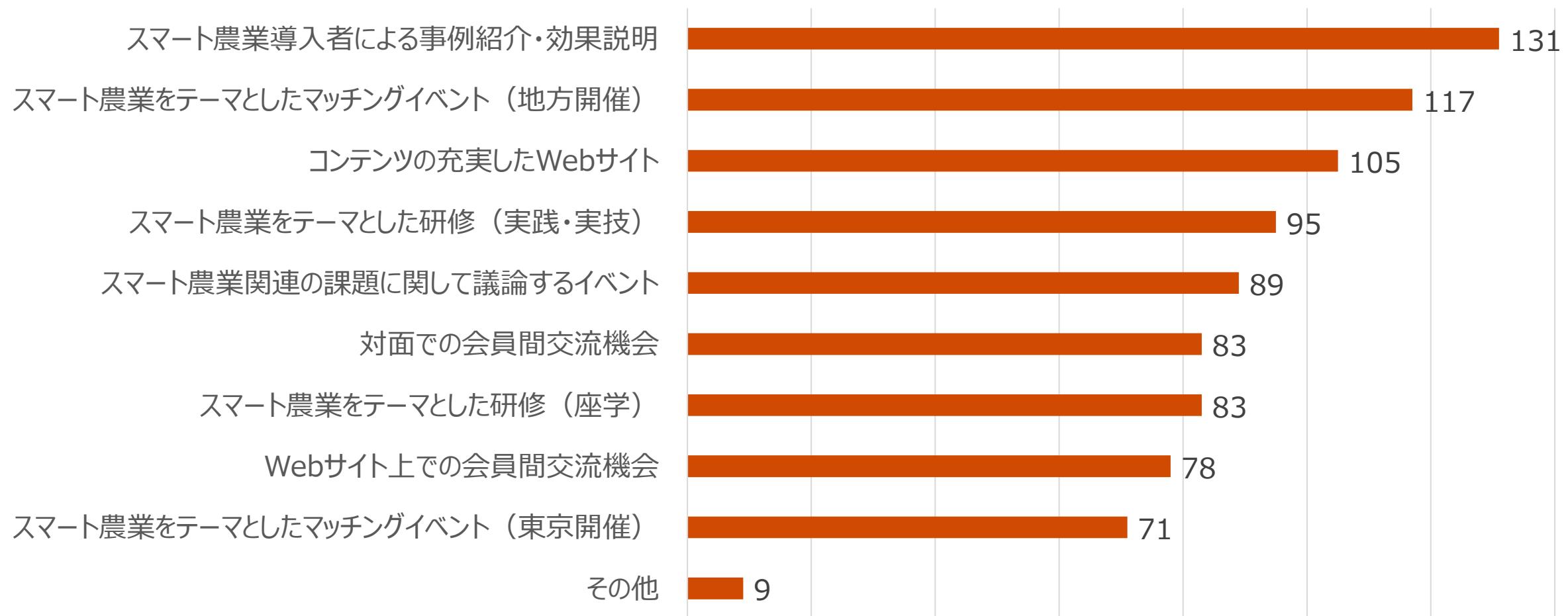


IPCSAに求める機能

IPCSAに求める機能として、スマート農業導入者による事例紹介・効果説明や地方でのマッチングイベントへのニーズが高い結果となった。

IPCSAに求める機能（件数）

N=255
※複数選択

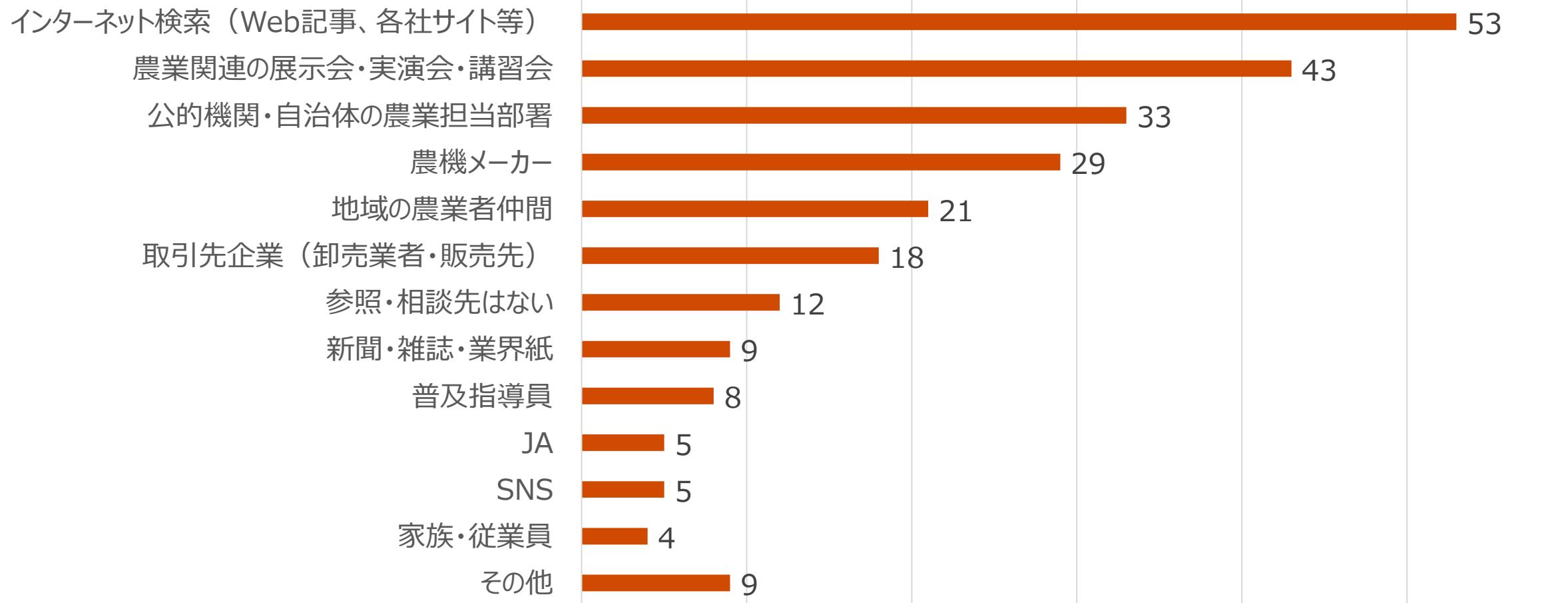


スマ農技術の情報収集時の参考・相談先

スマ農技術の情報収集時はインターネット検索を活用する回答が最多で、次いで農業関連の展示会・実演会・講習会等が挙げられた。

スマート農業技術の情報収集時の参考・相談先

N=255
※複数選択

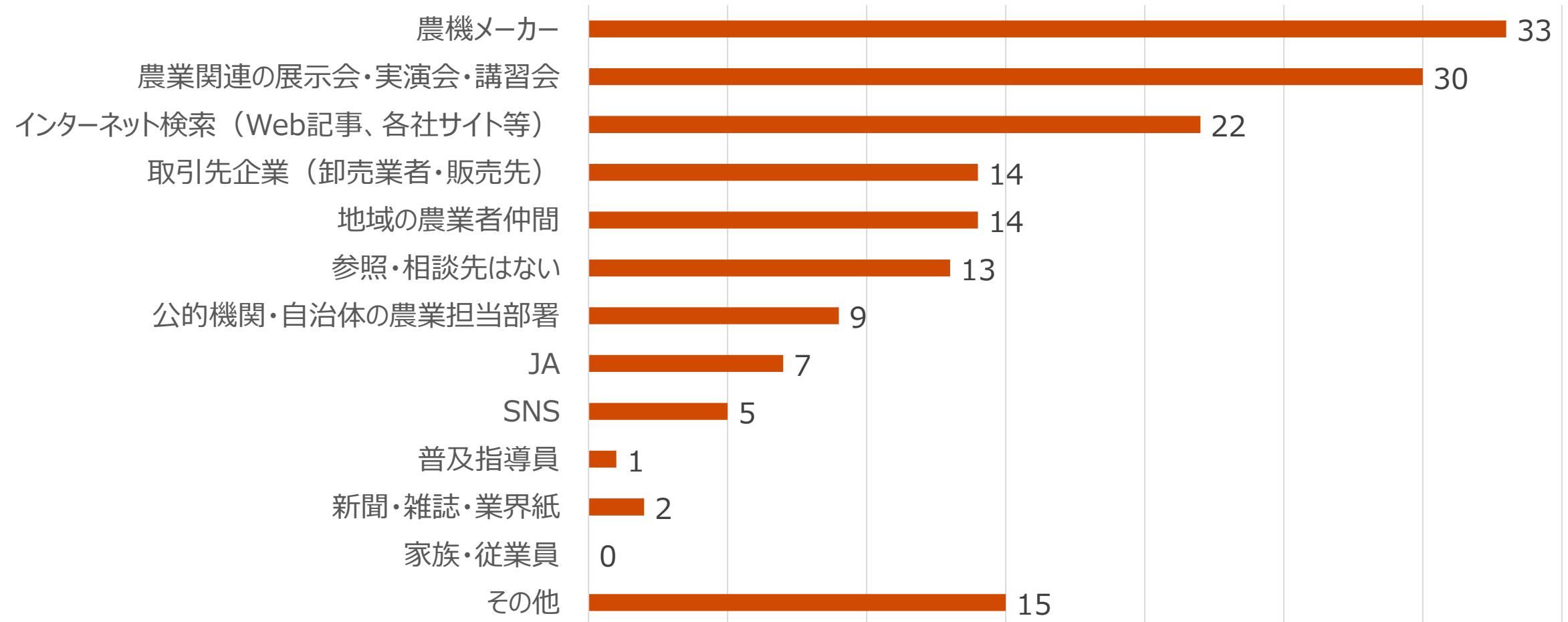


スマ農技術の活用/開発/普及時の参考・相談先

スマ農技術の活用・開発・普及促進等を実施する際の参考相談先としては、農機メーカーが最多で、次いで農業関連の展示会・実演会・講習会が挙げられた。

スマート農業技術の活用/開発/普及促進時の参考・相談先

N=255
※複数選択

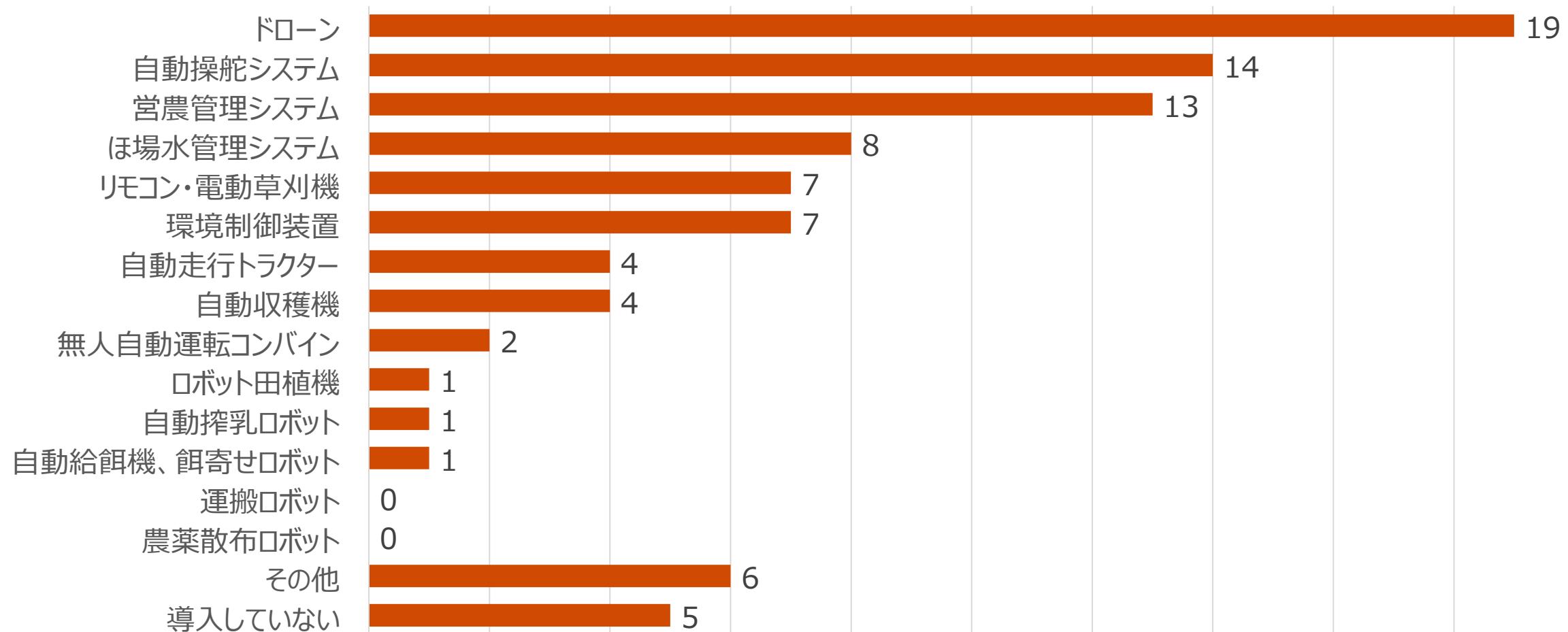


ユーザー（既に導入している技術）

導入済の技術としては、ドローン、自動操舵システム、営農管理システムが上位に挙げられた。

既に導入している技術

N=46
※複数選択

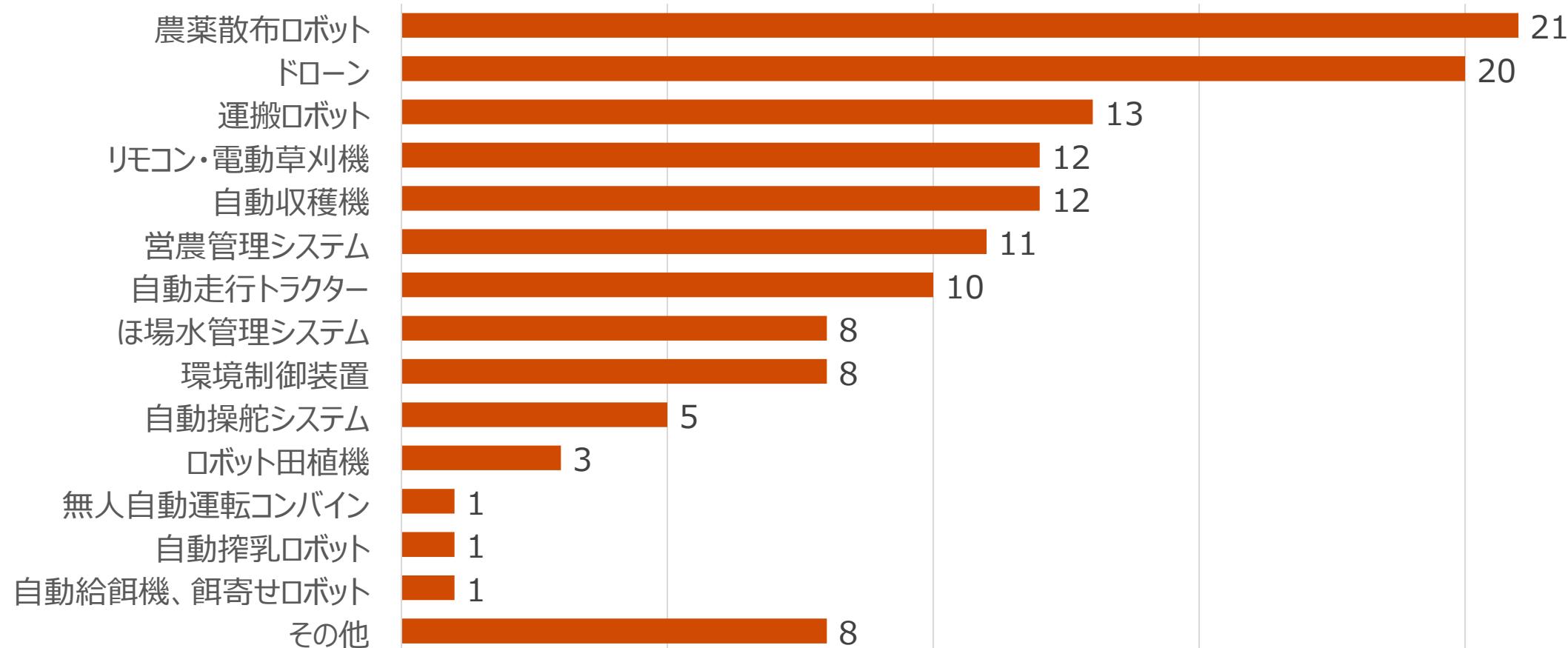


ユーザー（導入を検討したい技術）

導入済の技術として最多は農薬散布ロボット、次いでドローンが挙げられた。

N=46
※複数選択

導入を検討したい技術

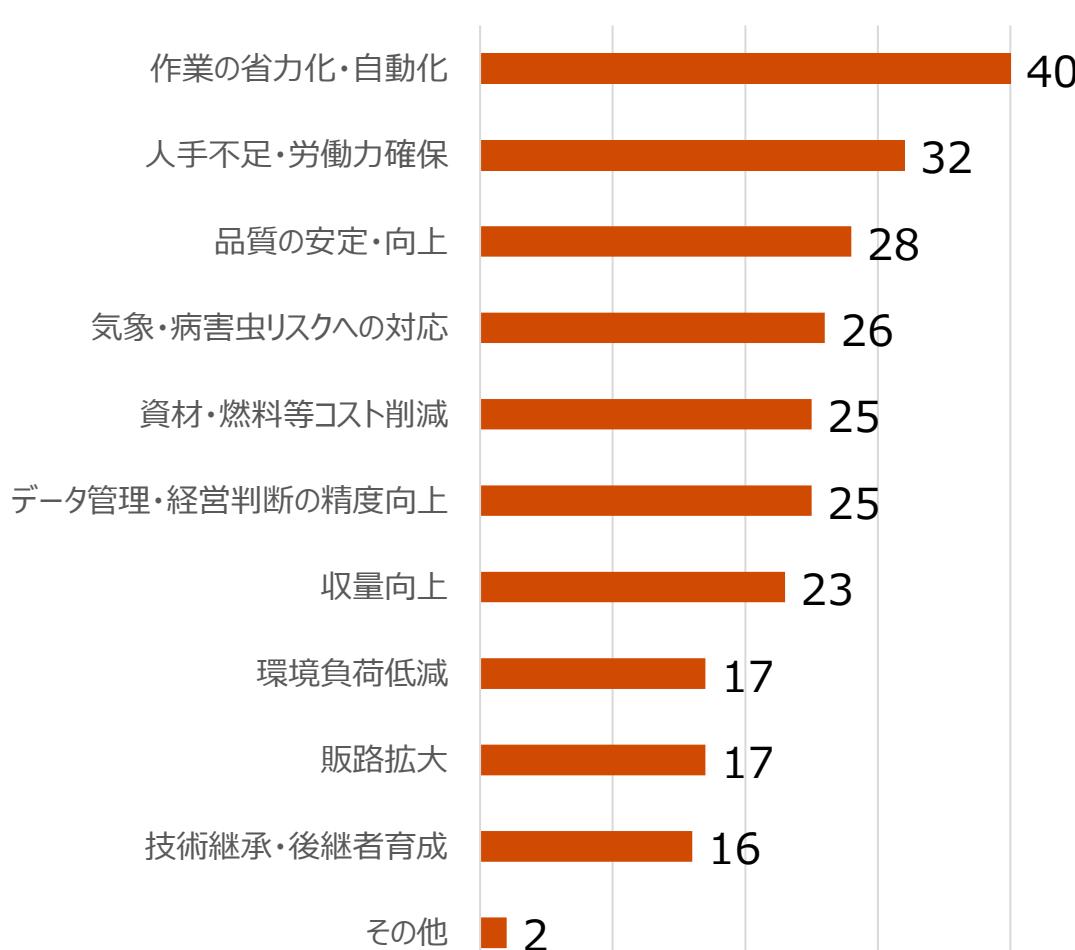


スマ農技術のユーザーの課題

農業生産における課題は人手不足、省力化が大きい。スマ農技術導入においては、コスト面のハードルの高さや、効果・メリットの不明瞭さが課題として挙げられた。

ユーザーの農業生産における課題

N=46
※複数選択



スマート農業技術導入に係る課題

N=46
※複数選択



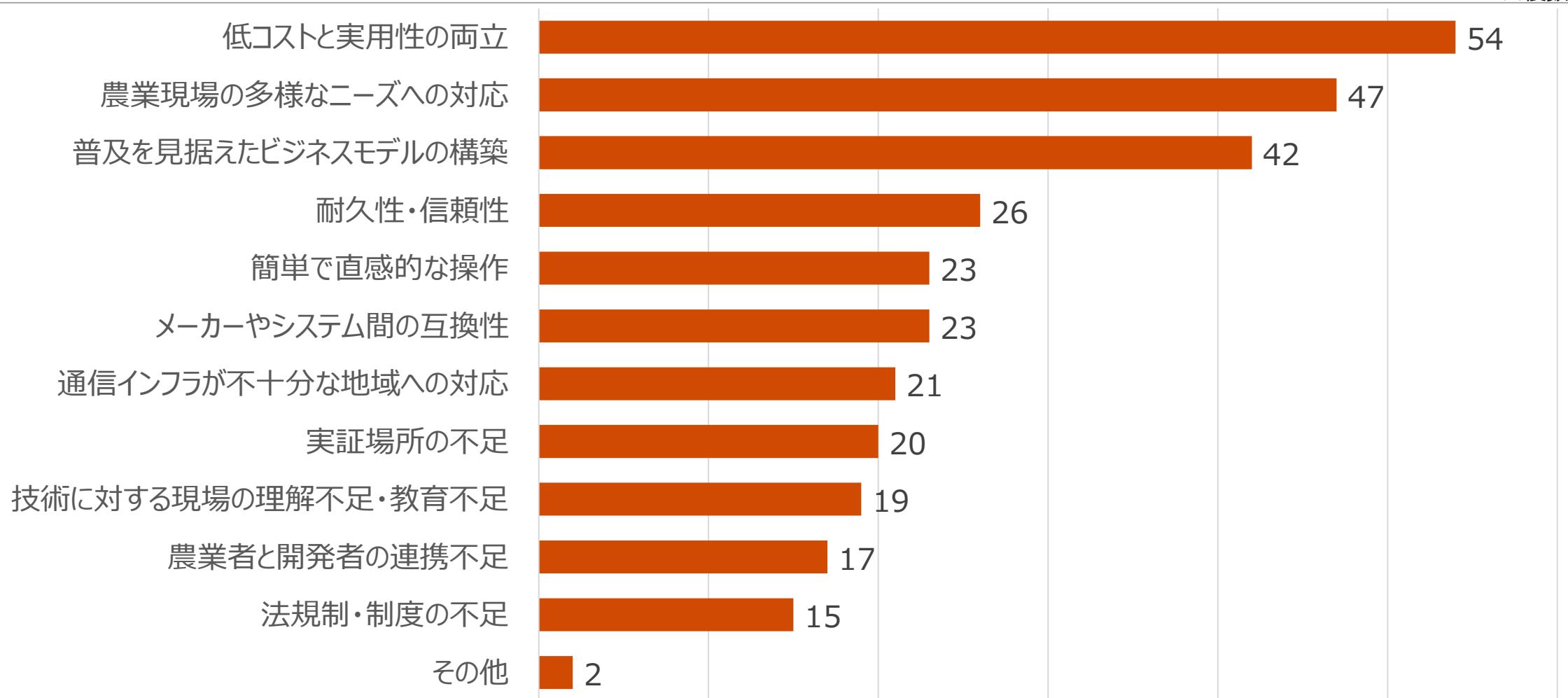
※スマ農技術のユーザーは、農業者・農業法人のほか、異業種でも営農している方が該当

研究開発者の技術開発における課題

技術開発において、低成本と実用性の両立が最大の課題。また、農業現場の多様なニーズへの対応も課題となっている。

技術開発において解決したい課題（件数）

N=87
※複数選択



普及促進者の取組における課題

普及促進において解決したい課題は導入コストの高さが最も多く、次いで農業者の理解・関心不足が挙げられている。

N=116
※複数選択

普及促進において解決したい課題（件数）

